

5月

May

WHOと欧州投資銀行：医療システム構築努力を強化

WHOと欧州投資銀行はCOVID-19への取組みの第1ステップとしてアフリカ10か国で緊急ニーズに対応したプライマリヘルスケアを強化します。このパートナーシップは医療者防護服、診断薬、臨床マネジメントなどのサプライチェーンの財政面まで拡大を目指します。

WHO:COVID-19の緊急事態宣言を継続

4月30日の第3回緊急委員会は、COVID-19が依然として公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)にあることを全会一致で合意しました。

数十億人がヘルペスに感染

世界中で約5億人が性器ヘルペスを患っており、数十億人が口腔ヘルペスに感染していると推定されています。

天然痘根絶から受け継ぐ希望

1980年5月8日、第33回世界保健総会は公式に天然痘根絶を宣言しました。3000年間人類を苦しめ、20世紀だけで3億人を亡くした病気の終わりを告げました。天然痘からの教訓は、今日、ポリオやCOVID-19の対策に活かされています。

喫煙はCOVID-19を悪化させる

毎年、700万人以上がたばこの直接使用によるもので、また約120万人が間接喫煙によるもので死亡しています。喫煙は多くの呼吸器感染症のリスクファクターです。専門家によるレビューでは、喫煙者は非喫煙者と比べてCOVID-19で重症になる可能性が高いとされています。

COVID-19によるHIV医療サービスの停滞

サハラ以南のアフリカでは、推定2570万人がHIVに感染しており、2018年には1640万人が抗レトロウイルス療法を受けています。COVID-19のために半年間医療サービスが途絶えると、サハラ以南のアフリカにおいて結核を含むAIDS関連の疾患による死亡が50万人以上増加する可能性があります。

降圧剤(ACE阻害剤とARB剤)はCOVID-19のリスクを増加させるか？

COVID-19の重症化のリスクとして高血圧症が懸念されています。WHOは公表された文献について迅速レビューを行い、ACE阻害剤及びARB剤の服用歴がCOVID-19に罹患した場合の重症化のリスクを上げるとする確たる証拠はないとされています。

偽情報に対抗する共同キャンペーン

WHOは、COVID-19に関する悪意のある偽情報のリスクに関する意識向上のため、英国政府は「Stop The Spread」と呼ばれるキャンペーンを、5月と6月にBBCを通じて世界20か国で展開します。信頼できない情報源からの情報をダブルチェックすること、保健省やWHOなど信頼できる情報を頼ることなどを勧めています。

WHOアカデミーがCOVID-19モバイルアプリ立上げ

WHOアカデミーは、医療従事者向けの情報アプリを立ち上げました。このアプリはCOVID-19の期間中、患者のケアに役立つ最新のガイダンス、ツール、トレーニング、仮想ワークショップなどを医療従事者に提供します。

世界保健統計2020版:寿命は延びたがCOVID-19の脅威

世界保健統計2020が発表されました。SDGsの進捗の遅れがCOVID-19パンデミックによってさらに悪化することの懸念が示されています。人々の寿命は延びてより健康な生活が送れるようになる一方、他方ではSDGsの目標に届くには進捗が遅すぎる状況です

注)本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



COVID-19と子供、青少年の多重炎症性症候群

5月15日時点でCOVID-19の感染者数は400万人以上、死亡者は28万5千人と報告されています。最近になって欧州と米国から若年層での重篤化した症例のクラスターが報告されてきました。これらは炎症が亢進し、多臓器不全とショックに至ったものです。仮説としてCOVID-19との関連性が疑われています。

メンタルヘルスの危機回避に投資を

国連は、COVID-19パンデミックによって、今後数か月以内にメンタルヘルスへの緊急投資が必要であり、さもなければメンタルヘルスの状況に大きな危険をもたらすと報告しました。医療従事者がリスクにさらされているとともに、メンタルヘルスサービスの中断によってすでに多くの国々でうつ病や不安の症状が増加しています。

第73回世界保健総会閉幕

私たちが共有する慈愛を私たちの共通の脅威への対抗手段に(テドロス事務局長)。5月18 - 19日、世界保健総会において、COVID-19と戦うために世界が団結する

という決議が採択されました。この総会は史上初めてオンラインで行われ、130か国以上が参加しました。

公衆衛生：都市計画の重要性

COVID-19パンデミックは都市において安全な距離を取ることが重視されています。WHOと国連ハビタットは、健康と都市計画に関するソースブックを発行しました。計画中の都市開発と、そして建設された都市について人間と環境の健康に焦点を当てています。

スミソニアン科学教育センター：青少年向けCOVID-19ガイド発行

スミソニアン科学教育センターは、WHOとIAPと協力し、COVID-19についての青少年向けガイドを発行しました。青少年がCOVID-19を理解し、自分自身、家族およびコミュニティを安全に保つための行動を助けることを目的としています。

WHOとUNHCR、難民に対する保健サービス改善へ

WHOと国連難民高等弁務官事務所は難民など約7000万人をCOVID-19から保

護するため、継続的な取り組みを支援する新しく協定を改訂し、署名しました。2600万人は難民で、その80%は低・中所得国における仮住まいとなっています。

COVID-19による予防接種中断で、乳幼児8000万人が感染症の危機

COVID-19が引き起こした混乱のため予防接種中断が生じ、1歳未満の8000万人の子どもたちが感染症の危機にさらされています。はしかやポリオなどが再興する恐れがあります。WHOのほか、国連児童基金(ユニセフ)と、Gaviワクチンアライアンスは、ワクチン定期接種の再開に向けた取り組みを呼びかけました。

COVID-19から回復するためのWHO宣言

COVID-19パンデミックは、地球と人々の関係が壊れやすいものであることを教えています。WHOは、世界を回復するため、自然を保護する、水や衛生などクリーンなサービスへの投資、健康的なエネルギーへの移行、持続可能な食品システムを推進、健康な都市の建設、汚染を拡大する税金を使わない、ことの宣言を行いました。

5月のWHOファクトシート改定項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・栄養不良、・乳幼児の食事、・健康的な食事、・塩分の削減、・単純ヘルペス、・食の安全、・D型肝炎、・カンピロバクター、・がん、・無料の医療政策、・喘息

6月

June

WHO財団設立:世界の健康の支援に

WHOの5か年戦略計画「3つの10億」(緊急事態から10億人を保護、ユニバーサルヘルスの対象範囲を10億人に拡大、10億人の健康と福祉を確保)を達成するため、独立した助成団体「WHO財団」が創設されました。同財団は法的にWHOから別組織であり、公的機関、主要なドナー、企業などから寄付を募ります。

WHOとユニセフ、母乳代用品の有害な宣伝に対して警告

WHO、ユニセフおよび乳幼児食品国際行動ネットワーク(IBFAN)はCOVID-19に感染または感染が疑われる場合でも、母乳育児を続けることを推奨しています。現在の知見ではCOVID-19に感染している母親からでも母乳による感染の可能性はないとしています。健康の専門家を通じて行われる母乳代用品の宣伝攻勢が新生児、幼児の健康の障害となっています。

アフリカ・トリパノソーマ症:根絶に向け前進

トリパノソーマ症2016年の2164例から2018年には977例に減少しており、

世界的な根絶に向けて進展が見られます。この疾病はツエツエ蠅により媒介される致死性の感染症であり、20世紀になっても幾度となくアフリカで流行を繰り返してきました。

子どもと若者をたばこ産業から護る

たばこ産業は毎年90億米ドル以上の広告費をつぎ込んでいます。毎年800万人がたばこで死亡する埋め合わせとして若年層にターゲットを当てています。WHOは子どもや若者に対するたばこ産業のマーケティング戦略の停止を要請しています。

対COVID-19研究支援に国際社会が集結

COVID-19テクノロジー・アクセス・プール(C-TAP)に30か国と複数の国際機関が参加を合意しました。このC-TAPは、オープンな研究を通じてワクチン、医薬品等の開発を加速し、成果物の迅速で公平なアクセスを保証することを目的としています。

WHOアカデミー(来年開設予定)へのアイデア募集

医療従事者等の生涯学習の場として、

2021年5月に開設予定のWHOアカデミーでは、健康のためのトレーニング、生涯学習のアプローチに関するアイデアを募集しています。

懸念される薬剤耐性の顕著な増加

多くの国々が薬剤耐性に関するデータの収集に取り組んでおり、世界規模での重要な前進です。現在、グローバル薬剤耐性監視システム(GLASS)は66か国が参加しており、64,000を超える監視サイトに200万人の患者が登録されています。

COVID-19によりNCDsの医療に重大な影響

WHOはCOVID-19のパンデミックが始まって以来、非感染性疾患(NCDs)への医療サービスが混乱しており155か国の現状を調査した結果、治療などが一部もしくは完全に中断されるなどの影響を受けた国は、高血圧で53%、糖尿病で49%、がんが42%です。

世界食品安全デー:Facebookでライブイベント

6月7日は第二回世界食品安全デーです。WHOとFAO(国連食糧農業機関)は、「食の安全:みんなのビジネス」というテー

注)本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



マでバーチャルイベントを開催しました。WHOは世界的な食中毒発生を抑制する取り組みを推進しています。

自然は健康の最大の源泉

世界環境デー（6月5日）に際し、WHOは「COVID-19からの健康的でやさしい回復のための宣言」の最初に「人間の健康の源である自然の保護」を謳っています。環境保護、緊急時の備え、健康システムと社会のセーフティネットに金を惜しむことは誤った経済を作り、そのつけは今や何度も支払うことになっています。生物多様性の損失、生態系の劣化は、人獣共通感染症や動物媒介性疾患の発生や拡大をもたらしています。

WHO、マスク着用の指針を変更

これまでWHOは健康な人が着用しても感染を予防できる根拠がないとしていたマスク着用に関する指針を大幅に変更し、感染が広がっている地域の公共の場でのマスク着用を推奨すると発表しました。感染者がどうしてもやむをえず外出する場合や、家族に感染者がいる場合には、医療用マスクをする必要があります。

デキサメタゾン投与でCOVID-19重症患者の死亡率低下：予備的検討

WHOは、デキサメタゾンの投与で、COVID-19の重篤な患者の救命を示唆する英国での臨床試験結果を有望なものとして見なしています。この予備的結果では、人工呼吸器を装着した患者の治療では死亡率が約3分の1に減少、酸素のみを必要とする患者の死亡率は約5分の1に減少しました。

世界のリーダー：高齢者への影響について懸念を表明

高齢者はCOVID-19による深刻な影響を受けており、世界のリーダーたちが深い懸念とメッセージを表明しました。高齢者の人権と尊厳、家族やコミュニティの協力、独り暮らしのサポート、介護施設におけるケアの連帯、コミュニティにおけるつながりの活性化など、メッセージは多岐にわたっています。

ルクセンブルグと資金調達 の覚書を締結

ルクセンブルグとWHOは、2020年から2023年の間、第13次一般プログラムを支援するための覚書に署名しました。こ

れは、WHOの野心的な目標「3つの10億」の達成のための支援です。

世界の子どもの半分以上が暴力を受けている

WHO、ユニセフ、ユネスコ及び国連の報告書によると、18歳未満の子どもの約半数の10億人が身体的、性的あるいは心理的な形で暴力を受け、受傷や死亡に至っています。2017年には約4万人が殺害されたと推計しています。

薬剤耐性(AMR)最新情報

細菌、ウイルス、寄生虫などは抗生物質などに曝されると、自ら変異し、あるいは他の微生物から防御遺伝子を取り込んで対抗し、生存を図ります。抗生物質が広く使われるほど薬剤耐性も増強し、拡散していきます。

母乳育児とCOVID-19

WHOは、生後6か月間は母乳のみによる育児を推奨し、最大2年間以上母乳育児を続けることを推奨しています。COVID-19感染の疑いがある、または母親が感染した場合でも母乳育児の利点があることを助言する必要があるとしています。

6月のWHOファクトシート改定項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。
<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・たばこ、・糖尿病、・子どもへの暴力、・若者の暴力、・児童虐待、・砂糖と虫歯、・生物多様性と健康、・高温と健康、・高齢者の虐待、・血液の安全と活用、・家族計画と避妊方法、・デング熱および重症デング熱

7月

July

COVID-19対応活動のタイムライン

WHOはCOVID-19への対応について、2019年12月31日から2020年6月29日までに74回のメディア説明会、WPI-WINは60の技術オンラインセミナー、OpenWHOプラットフォームの開催、ワクチン候補の開発状況について、臨床評価17、前臨床評価132件を実施しました。

国際協働によりコロナワクチン20億回分を目指す

国際協働メカニズム「ACTアクセラレーター」は、新型コロナウイルス感染症との闘いのために診断、治療、ワクチン、ヘルスシステムコネクタの新しいツールの開発、生産、公平なアクセスを加速化させるための協働の仕組みとして発足しました。

喫煙によるCOVID-19の重症化の可能性

MEDLINEなど各種のデータベースを用いて、喫煙とCOVID-19に関する文献検討が行われました。入院している患者については喫煙が重症度と死亡の増加に関連していることが示唆されましたが、喫煙者が感染しやすいというエビデンスは見つかりませんでした。

抗マラリヤ薬と抗HIV薬の新型コロナ治験を中止

WHOは、抗マラリヤ薬「ヒドロキシクロロキン」と抗エイズウイルス (HIV) 薬「ロピナビル / リトナビル」のCOVID-19入院患者への治験を中止すると発表しました。中間結果で、標準的な治療法と比べて入院患者の死亡率低下の効果が示されませんでした。

73か国でHIV治療薬の在庫不足のおそれ

COVID-19パンデミックの影響で73か国がHIV治療薬 (抗レトロウイルス薬-ARV) の在庫切れのリスクがあり、うち830万人が治療薬の恩恵を受けている24か国では在庫が極度にひっ迫するか、供給に混乱をきたしています。

専門家を中国に派遣 新型コロナウイルスの起源解明へ

WHOはSARS-COV-2ウイルスの人獣共通感染源を特定するため、専門家を中国に派遣し中国と共同で調査計画の立案を行うこととしています。ウイルス感染症出現の起源を確定することは過去の事例から複雑なものであることが分かっています。

独立委員会がCOVID-19対応を検証

WHOは、COVID-19のパンデミックに世界がどう対応したのかを評価するため、独立委員会(IPPR) の発足を発表しました。この対応は5月に開催された第73回世界保健総会で採択された、COVID-19への国際的対応から得られる教訓を評価するとの決議に基づくものです。

2030年飢餓ゼロの達成が困難に

世界で飢えに苦しむ人はこの5年間で6000万人増加し、2019年に6億9000万人となりました。気候変動や紛争に加えて新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延が食料状況の悪化を加速しています。東アフリカや南アジアのサバクトビバッタの被害の拡大も懸念されます。

予防接種継続への支援へ

COVID-19パンデミックがそれ以外の疾病を消失させているわけではありません。医療を含む多くのサービスが縮小されており、感染症のさらなる発生のリスクが高まっています。特に子どもの死亡率に深刻な影響を与える可能性があります。

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものです。詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリース、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



予防接種の減少を警告

COVID-19パンデミックの影響により、予防接種を受けている子どもの数が驚くほど減少しています。これはCOVID-19パンデミックのために予防接種サービスが支障をきたしているためです。

COVID-19ワクチンの平等分配：COVAXファシリティ

現在COVIDワクチン候補は100以上あり、うち20以上の候補が臨床試験に入っています。現在75か国が自国の公的予算から、また90の低所得国はGAVIへの寄付金によってワクチンを手当てしようとしています。合計で165か国がCOVAXファシリティに参加を表明しています。この共同体に参加することで、すでに個別の供給契約を結んだ候補ワクチンが失敗に終わっても別のワクチン供給を確保することができます。

COVID-19に関するガイダンス

COVID-19のパンデミックへの対応について、WHOは、あらゆる段階でガイダンスとアドバイスを公開しています。2020年1月以降、WHOはCOVID-19に関する100を超えるドキュメントを公開しており、また、31か国語の100以上の

無料オンラインコースがあり、7月現在370万人が参加しています。

AIで禁煙をサポート

喫煙者の60%が禁煙を望みながら、現実には30%の人々しかカウンセラーなどを利用していません。ミート・フローレンスはWHOとして初めての人工知能を駆使する仮想医療従事者です。彼女はCOVID-19と喫煙に関する根拠のあやふやな社会通念を払いのけ、フローレンスと対話しながら個人的な禁煙計画を立てます。

セルフケアの概念的枠組み

現代医療と伝統的自己治療に加えて、人々は薬局やインターネットで提供される新しい情報、製品や介入を求めています。セルフケアの概念的枠組みは以下の階層により構成されています。第一階層（重要原則）：人権、ジェンダーの平等、倫理、人生の各段階、伝統的医療と社会文化的な実践、デジタル技術とプラットフォーム。第二階層（利用する場所）：医療従事者、薬局、医療サービス、家庭など。第三階層（可能とする環境）：医療製品の安全性、心理的社会的支援、衣食住と医療費を負担できる経済力、情報と教育など。第四階層（説明責任を持つ各ステークホ

ルダー）：地域社会、民間部門、医療部門、政府・行政、個人など。

COVID-19：法的情報と支援の立ち上げ

WHOは、国連開発計画（UNDP）、国連共同エイズ計画（UNAIDS）およびジョージタウン大学オニール研究所（国際保健法）と共同で、COVID-19対応のための法的支援のラボ「COVID-19 Law Lab」を立ち上げました。

世界肝炎デー：母子間のB型肝炎感染根絶を

B型肝炎（HBV）に感染している5歳未満の子どもの割合は、ワクチン接種が始まる前に約5%であったものが、2019年には約1%に低下したと推計されます。将来肝障害や肝がんの症例が劇的に減少することを意味しています。

加熱式たばこに関するWHOの声明と米国FDAの決定

WHOは、加熱式たばこ（HTP）は、たばこ製品のひとつであり、たばこ規制枠組み条約はこれらの製品に適用されることを加盟各国に確認しました。

7月のWHOファクトシート改定項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。

<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

・HIV/エイズ、・予防接種率